〈身〉の医療研究会　第３回研究交流会　会長ご挨拶

今年度の第 3 回研究交流会は、関西医科大学心療内科学講座で担当させて頂くことになりました。

「心療内科」は心身医学をベースに、主に内科領域にその概念を適用した診療科です。心療内科・心身医学では、心と身体をわけずに統合システムとしてとらえ、特に関係性に着目して医療を行っています。従って＜身＞の医療とは、切っても切れない深い関係にあります。

一方、近年増加している過敏性腸症候群などの機能性疾患は、臓器別によらない共通の特徴を多く持つことから総称して「機能性身体症候群」と呼ばれ、その病態や対応についての研究が進んでいます。機能性身体症候群には「身」「心」両面からの見方やアプローチが有用であり、これまた心身の統合体としての「身」の概念と一致するところが多い疾患群です。奇しくも当講座は「心療内科」とともに「総合診療科」を診療科として有しており、それらすべてに共通するのが、臓器や部位別でなく全体のシステムでみる見方でありましょう。

今回は特別講演としまして、東海学園大学名誉教授で僧侶でもあられる奈倉道隆先生をお招きし、「『摩訶止観』の仏教医学と身の医療」と題したご講演をして頂くことになっております。＜身＞の概念は仏教との関係も深く、本会にふさわしく、かつ興味深いお話を聞かせて頂けるものと思います。

また、身体の気づきの基盤になる「内受容感覚」、医療で＜身＞の医療の入口となる「身体症状」をテーマとしたシンポジウムを組ませて頂きました。

医療現場での「機能性身体症候群」を一つの切り口として、心理、代替医療、ボディワークなど各方面での「身の臨床」をつなぐ、活発な議論を行っていければと考えております。
みなさまにとって実りの多い研究交流会となるよう力を尽くしたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

第３回研究交流会
会　長　福永幹彦
副会長　神原憲治
関西医科大学心療内科学講座